

相次ぐ精神科の閉院・縮小で精神科医療がひっ迫！！

共産党議員団が緊急に保健所に申し入れ

釧路保健所長 石井 安彦 様

2023年12月4日

日本共産党釧路市議団

村上 和繁
梅津 則行
西村 雅人
小山 秀人

釧路管内における精神医療に関する要望書

釧路管内の住民のために地域医療を担う仕事に、日夜頑張ってください感謝申し上げます。

さて、昨年に続き精神科医院の閉院により患者さんをはじめ関係者の不安が大きくなっています。また、閉院後、保健所職員のみなさんの尽力により、患者さんがそれぞれ他の病院に移動するなど、不安解消につながっています。しかし、この間、あまりにも閉院が続くことから対応する医療関係者も多忙となり、様々な声も寄せられています。内科医師への受診に一定の不安をもつ患者さんがおり、また精神科医師の多忙により「邪険に扱われる」と感じる患者さんが医療から離れていること、はじめて精神科を受診しようとしても何か月も待たなければならない状況が続いています。

このような現状を改善し少しでも患者さんの不安を解消するために、私たちは以下のことを要望します。

記

1. 北海道として緊急に専門の医師・看護師などを派遣すること
2. 「こころの健康相談」の回数を増やすこと
3. 保健師、精神保健福祉士等による相談窓口を、開庁日には常設すること

以上

昨年来、釧路市内の精神科で病院の規模縮小や閉院が相次ぎ、通院している患者に不安と混乱が広がっています。それだけでなく釧路市の精神科は専門医が少なく、新患者は数か月も待たなければ受診できなかつた現状が、さらに深刻となっております。

そこで日本共産党市議団は12月4日、緊急に釧路保健所に申し入れ、石井安彦保健所長と意見交換をいたしました。申し入れ内容は、右の要望書をご覧ください。



石井所長の説明を聞く村上・小山両議員

深刻な患者の実態

深刻な実態が共産党議員団や生活と健康を守る会に寄せられています。

20代の子どもが不登校で「死にたい」と言い始めた。母親は精神科の受診が必要と思いい、市立病院に電話したが「5か月待ち」と言われた。母親は市内の精神科に次々電話したが、「新患の受付はしていない」病院も多く、開けてくても3か月待ち、5か月待ち。「このままでは子どもが死んでしまう。」

突然閉院した病院に通っていた患者の場合は、保健所や関係機関が集まって次の病院の割り振りをしました。しかし、深刻な医師不足で「あなたは今内科に通って、お薬をもらって」と、精神科の診察ができなくなるケースも出ています。こうしたことで体調を崩す方もいます。

保健所長の対応にも限界が・・・

「以前、市立病院の精神科に勤務していた医師が久しぶりに市立病院に着任した。以前と比べ外来患者が1・5倍に増えて非常に厳しくなっている」「北海道では札幌と旭川以外は医師不足。釧路の精神科の医師

不足は本庁とも情報共有している。問い合わせはあるが、まだ目に見える成果は出せていない。」「こころの健康相談は、管内の精神科の医師にしてもらっているが、これを増やすと外来診療に入れなくなってしまう。」「相談は保健師が行っている。電話で事前に予約を取ってほしい。必要な方に情報が届いていないという課題もある」などの回答がありました。

保健所が相当の努力を払っているのはわかりますが、一定数の精神科医が増えないと根本的な解決にはつながりません。

日本共産党議員団も、市政の重要



申し入れをした西村・村上・小山議員

課題と位置付
けて、
引き続
き活動
してい
きま
す。